

かりそういうやりたいこと、目標をもって学生生活を送っているのはすばらしいことだと思います。

自分のことなんですけど、僕は県外の大学に行っていたんですが、実家の家業を継ぐことになって、大学を辞めてしまったんです。家業を継ぐので大学出て出ないのは関係ない、とにかく現場で経験を積んでいかなあかんとそのときに強く思っています。友達の説得も振り切って帰ってきたんです。当時は自分なりに納



得して、仕事に励んでいたんですけどね。今市長という立場になって、あのとき自分が決めたことはベストな選択だったのかなと思うことがあります。

コロナ禍での学生生活

市長 それでは次の話題にいきましよう。コロナ禍の学生生活で大変だったこと

とか思うところをお話いただけたらなと思います。

長谷 コロナが流行りだしてから、学校にも行けなくなってオンライン授業になったりしました。学校にいったら友達と顔を合わせて話したりできるのに、オンラインになってしまおうとあまりしゃべれなくて孤独を感じてしまうことがあったので、今当たり前のように学校に行っているのがとても幸せなんだと実感しています。

大変だったことは外に出れないというのが、自分の中では結構辛かったです。家にいると体を動かすこともしなくなったり、家族との時間は増えるんですけど、それ以外の時間が削られてしまうので、そういう面で大変だったなと思いました。

市長 行政でもいろんな会議があるんですけど、基本的にオンラインは直接会って

話をするより意見が出にくいですね。会場の雰囲気とか参加している皆さんの表情とかがまったくわからないので、オンラインで会議するのはそこに行かなくていいかと思うんです。メリットもあればデメリットもあります。特に大学生活の場合は仲間がいて、友達がいって成り立ちますからね。

続いて、橋本さんはどうでしょうか。

橋本 コロナ禍では部活の時間が減ったことがあって、部活の友達と会えないのが辛かったです。面白い子たちがたくさんいるので笑う回数が減ったと感じました。

自分は阿波踊りをやっているんですけど、阿波踊りの開催がなくなって練習もしないので、連の人たちと会う機会がなくなりました。阿波踊りがあるから関われる人たちもたくさんいたので、関わりがなくなってしまうのが残念だなと思いました。

市長 なるほど、地域のイベントも軒並み中止になりましたもんね。

コロナに対する対応は国も県も自治体も経験を踏んできましたので、なんとか今年は阿波踊りを含めてイベントを開催できたいなと思っています。

それは上田さん、お願いします。

上田 2人が言ったように、学校生活が普通に送れなくなるといっても大変なんですけど、感染対策に気を使うことがいっぱい増えてきて、それが大変ですね。

例えば部活動では、活動時間や参加者の把握、あとは換気や手洗いというのが徹底

きに助けてくれるという安心感がありました。教育実習に母校の川島小に行かせていただいたんですけど、そのときに徒歩で通学している子が減っているの聞きました。家庭の事情で徒歩や自転車通学できない子どももいるとは思っています。

吉野川市には地域の方との関わりが減らないようなまちになってほしいなと思います。

市長 なるほど。山川町に高越小学校という川田、川田中、川田西、種野小学校が一つになった学校ができて、徒歩圏内で通える子どもたちは徒歩で通っているんですけど、それ以外のエリアの子どもたちはスクールバスで通っているんですよ。確かに便利なんですけど、地域のスクー

ルガードの方とかお年寄りの方と触れあ

う機会が減ってしまってますね。その辺は危惧しているところなので、おっしゃる意味がわかりますね。

それでは最後に上田さんお願いします。

上田 吉野川市に住みたい、帰って来たいと思っもらえるような市になってもらいたいと考えています。吉野川市には魅力がいっぱいあるので、どんどん発信してもらいたいと思います。市と市民が関わるイベントに子ども頃から参加して、地域と繋がっていくという実感があることで、大人になって安心して暮らすためにここに戻ってくる、という考えになるのかなと思います。吉野川市で暮らしたいと思えるような市になってほしいと思います。

市長 ありがとうございます。例えるならば、地元のことを真剣に考えている人が10人いるまちと100人いるまちではどっちがいいまちになるかといえれば、当然100人いるまちなんですけど、市としてはそういう所を目指して行きたいな思っています。そのためには市と市民の方との関わり合いや協働作業、これが必要不可欠なんじゃないかと思っってます。当然教育も大事だと思います。子どもたちの郷土愛とかね。地元の良いところを知って語ってもらうのは大事だと思います。

これからの未来を担う、成人を迎えられた皆さんの今後のご活躍を大いに期待しています。本日はありがとうございます。

一同 ありがとうございます。



上田 成人になったんですけど、まだ学生ということ、仕事に就いて社会に貢献したりするのはまだ猶予があるので、この期間にしっかりと勉強したいです。教員になって地元を愛してくれる子どもを育てていきたいなと思っっているので、あと1年しっかりと勉強して立派な社会人になりたいと思います。

市長 なるほど。では、橋本さんお願いします。

橋本 今はがむしやらに大学生活を楽しみたいという気持ちがあります。この2年間コロナの影響で大学生活が制限されてきて、県外に遊びに行くこともできていないし、県外にいる友達ともなかなか会えてなくて。残りの1年間、感染予防に気を付けながら大学生活を楽しんで、自分のやりたいことをしっかりとみつけて、就職活動を頑張りたいと思います。

市長 わかりました。では長谷さんお願いします。

長谷 去年、年齢は二十歳になったんですけど、成人になった実感があまりありません。先日の成人式を通して大人の仲間入りができたのかなと感じました。今後は、今まで支えてくれた家族はもちろんなんですけど、小さいときの先生や周りの友達、さまざまな人に今まで受けた恩を返せるように、しっかりと今勉強して、社会に貢献できる大人になりたいなと思います。

市長 皆さん、素晴らしい意見ありがとうございます。皆さん大学生ですので、成人の実感を持つというのは難しいところですよ。社会人になって自然とそ

郷土愛あふれる吉野川市に

市長 それでは最後に、これから吉野川市にどういう市になってもらいたい、自由に意見をいただけたらと思います。長谷さんお願いします。

長谷 私は小学校の時に金管バンドをしたので、五九郎まつりに参加させていただいたことがあるんですけど、吉野川市の行事で一番心に残っています。そういう行事をもっと増やしてやって他の市町村にもPRして吉野川市全体を盛り上げていけたらなと思っています。

市長 ありがとうございます。イベントをすすととなつたらチラシを配ったりSNSでも発信したりすると思うんですけど、五九郎まつりのすごいところは、全くPRしなくても人が集まってくるんですよ。それだけ地域に根付いている素晴らしいイベントですね。

コロナが収束したら、交流人口を増やすために市内のさまざまなイベントを内外にアピールしていかねければならないなと思っっています。

そうしましたら橋本さん、お願いします。

橋本 自分は小・中・高校と家が近くて徒歩通学だったんですけど、地域の人と顔を合わせてあいさつをする機会が多かったんです。地域の人に顔を知ってもらえることによって、いざ何かあったと